

稲作緊急情報

令和7年7月25日
JAえちご上越 営農部

異常高温！ 出穂期3日目の穂肥施用の検討！

連日高温が続き、葉色が急激に低下している圃場が見受けられます。
今後も異常高温が続くと予想され、水稻の出穂～登熟期にかけての高温が想定されます。
葉色を確認し、2回目穂肥の実施後も葉色が淡い場合は後期栄養確保のため、3回目穂肥を検討してください。

◆3回目穂肥の判断めやす(コシヒカリ)

○元肥+穂肥分施肥体系の場合

施肥体系	判定時期	葉色のめやす(単葉)	施用時期	施用窒素量
【慣行栽培】 化学肥料を施用	出穂期3日前	SPAD値31以下 葉色版で4.0以下	出穂期3日前	1kg/10a
【減化学肥料栽培】 有機50%肥料施用	出穂期6日前	SPAD値で33以下 葉色版で4.5以下	出穂期3日前	1kg/10a
有機100%肥料施用			出穂期6～3日前	

(出穂期3日前は走り穂が出た頃)

○全量元肥(一発元肥)施用の場合

施肥体系	判定時期	葉色のめやす(単葉)	施用時期	施用窒素量
【慣行栽培】 化学肥料を施用	出穂期の葉色がめ やすを下回ると予想 される場合	SPAD値33～32 葉色板4.5～4.3	出穂期10～3日前	1kg/10a
【減化学肥料栽培】 有機100%肥料施用	出穂期10日前	SPAD値30以下 葉色版で3.8以下	出穂期10～5日前	2kg/10a

(複数日に測定することで、葉色の推移により予想精度を上げる)

◆水管理について

- ・出穂期前後は最も水を必要とする時期であり、登熟期間が高温で推移した場合、白未熟粒や胴割粒の発生が多くなります。土壌が湿った状態を保つ飽水管理を継続し、地温の上昇を抑え、根の活力維持に努めましょう。
ただし、高温時に長期間湛水すると根腐れしやすいので、浅い湛水としてください。
- ・出穂・開花期は高温・乾燥により不稔が発生します。フェーン現象等で高温・乾燥が予想される場合は、事前にかん水し、不稔の防止に努めてください。
- ・こまめに水回りを行い、かん水が終了したら速やかに水口を止めて節水に努めましょう。
また、緊急的な水管理が行えるよう、地域の効率的な水利用について、事前に準備を進めてください。

◆斑点米カメムシ類について

- ・高温・少雨の影響により斑点米カメムシ類の発生程度が多く、今後向こう1か月の気温は高いと予想されており、斑点米カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動が活発になると推測されます。
- ・品種ごとに出穂期を確認し、適期を逃さず、確実に防除を実施してください。